経済産業省
中国経済産業局

令和4年度中国地域ものづくり中小企業事業化支援事業
（オープンイノベーション・エコシステム構築事業）
実施報告書

2023年3月
中国経済産業局

本報告書は、経済産業省中国経済産業局による委託業務として、フォースタートアップス株式会社が実施した「令和4年度中国地域ものづくり中小企業事業化支援事業（オープンイノベーション・エコシステム構築事業）」の成果を取りまとめたものです。

目次

1.	本事業の全体像	P. 2
2.	中国地域価値創造チャレンジ事業	P. 7
3.	中国地域ベンチャーミートアップ事業	P. 19
4.	中国地域におけるエコシステムの考察	P. 24

1. 本事業の概要

中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステムを構築するために、本事業内容を通じてこれから目指すべきエコシステムの姿を見通すことが重要である。

事業を実施するにあたっての理念・基本方針

目指すべき姿

- 中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステムが確立し、自発的に様々な取り組みやイノベーションの種が生まれる状態

現状把握により目指すべき姿との差分の明確化を図る

目指すべき姿に近づくための第一歩

本事業内容

▶中国地域価値創造チャレンジ事業
- 対象：中国地域のものづくり中小企業
- 中小企業×ベンチャー企業等パートナーのオープンイノベーション事例を創出し、中国地域におけるオープンイノベーションの在り方を検証する

▶中国地域ベンチャーミートアップ事業
- 対象：中国地域のベンチャー企業（研究開発型）
- 中国地域における研究開発型ベンチャー企業の発掘、域外への発信を通じて中国地域のベンチャー企業のプレゼンス向上を図る

▶中国地域におけるエコシステムの考察
- 2つの事業によって、オープンイノベーションの二大プレイヤーである事業会社（中小企業）・ベンチャー企業との接点を持つことができる
- 同時に、その他のエコシステムプレイヤーである地方自治体・支援機関・金融機関・大学等の巻き込みも図ることができる
- 域内の中小企業を主な対象としたオープンイノベーションと域内のベンチャー企業のプレゼンスを高める取り組みから得られた知見から、多面的に「中国地域におけるエコシステムの在り方」を考察できる

本事業における開発内容は以下の通りである。

中国地域価値創造チャレンジ事業

事業	実施項目	実施概要
中国地域価値創造チャレンジ事業	①支援対象企業の選定	対象となるものづくり中小企業のリストアップを行い、デスクトップ調査を実施して支援対象企業候補の絞り込みを実施した。
	②事業連携仮説の検討及びパートナー候補の選定	支援対象企業候補に対してセミナーやヒアリングを実施、新規事業への取り組み姿勢や組織体制などから支援対象企業4社を選定。 支援対象企業4社の協業ニーズをヒアリングした上で協業パートナーの募集を実施した。
	③事業連携仮説を踏まえた実現可能性調査	応募があったパートナー候補に対して書類選考・面談選考を実施、支援対象企業との相性や事業性・実現可能性を基に採点、パートナー候補を選出。 パートナー候補を選出した3チームは「プレ協業」として正式協業に向けた模擬取り組みを実施した。
	④協業チームの組成	プレ協業（模擬取り組み）で立案した正式協業プランを決裁権者に「経営プレゼン」実施。 決裁権者の判断を経て3チームが正式な協業チーム組成に至った。
	⑤地方自治体、支援機関、金融機関、大学等に対する働きかけ	「①支援対象企業の選定」にあたって、企業の推薦を募った。 また、中国地域内に所在する大学とのオープンイノベーションに関する意見交換を実施。大学におけるオープンイノベーションの現在地と課題感を知るとともに、今後の連携可能性について模索した。
	⑥成果の対外的な情報発信	協業チーム組成に至った3チームに対し、本事業への参加背景や取り組んでみた感想、今後の展望などのインタビューを実施。域内で横展開できる事例レポートとしての活用。

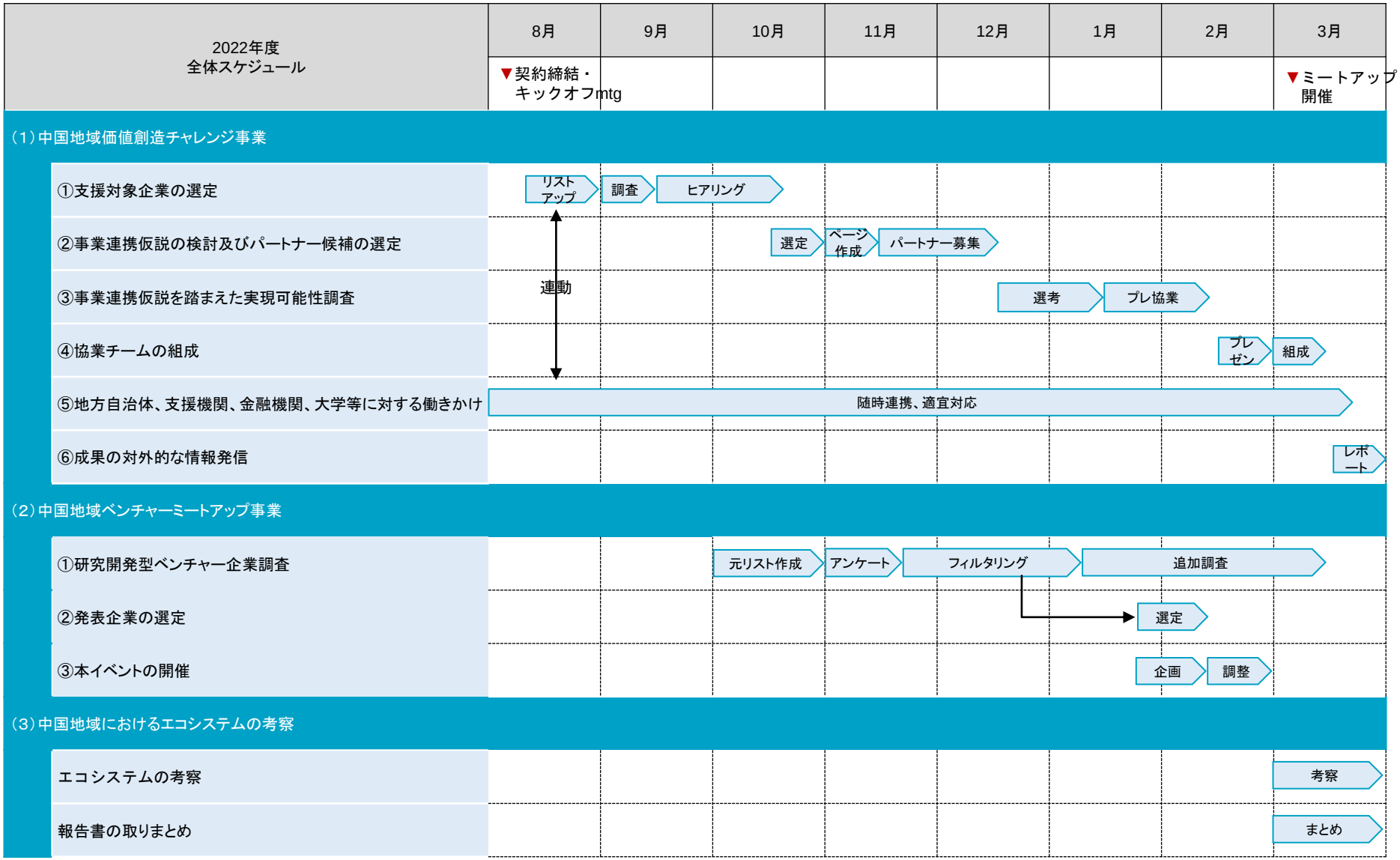
本事業における開発内容は以下の通りである。

中国地域ベンチャーミートアップ事業

事業	実施項目	実施概要
中国地域ベンチャーミートアップ事業	①研究開発型ベンチャー企業調査	中国地域における研究開発型ベンチャーについて、委託事業者が保有するデータベースSTARTUP DBを元データとして、研究開発型ベンチャー調査を実施、リスト作成を実施した。
	②発表企業の選定	上記で作成したリストを元に、オープンイノベーションのニーズがある研究開発型ベンチャーの推薦を募り、推薦があった先との面談を通して発表企業の選定を実施した。
	③本イベントの開催	イベントの企画～登壇者選定～日程調整～会場選定等の事前準備から当日のイベント運営までを一気通貫にて実施した。

1. 本事業の全体スケジュール

【凡例】▼：主なイベント



2. 中国地域価値創造チャレンジ事業

ものづくり中小企業のリストアップを実施、並行してデスクトップ調査と事務局連携先への紹介依頼を実施の上で最終的に突合、支援対象企業候補として38社に絞り込んだ。

実施内容

リストアップ【67社（重複有）】

「推薦フォーマット」を準備、中国経済産業局や関係機関からの情報提供により、本事業の取り組み（協業・オープンイノベーション・新規事業創出等）に前向きと思われるものづくり中小企業を推薦企業として募りリスト化を実施。
全部で67社のリストアップとなった。

デスクトップ調査【13社】

中国経済産業局管内（中国地域）におけるサポイン企業及び地域未来牽引企業（製造業区分）のリスト突合を実施、ロングリストを作成し、新規事業の取り組み状況・従業員数・売上高等のデスクトップ調査を実施した。
「サポイン企業かつ地域未来牽引企業」、その中で新規事業への取り組み状況を確認できた企業は13社となった。

連携先からの紹介【4社】

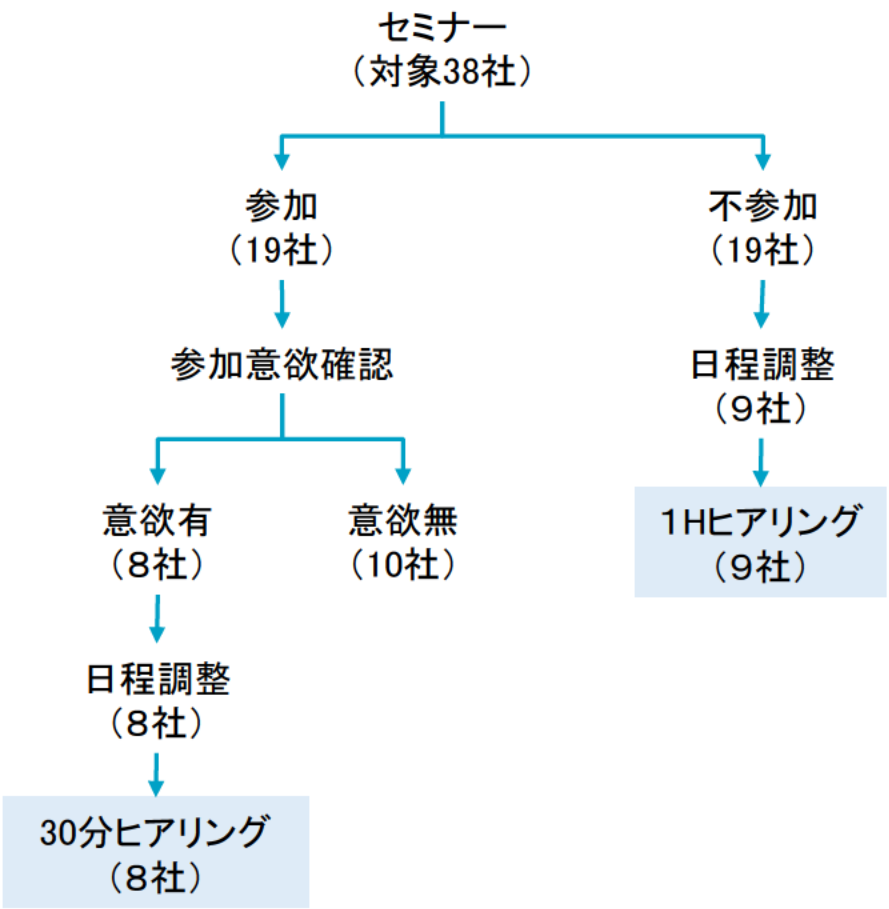
事務局とつながりがある先へ本事業の紹介を行い、本事業の取り組み（協業・オープンイノベーション・新規事業創出等）に前向きと思われるものづくり中小企業の紹介を依頼、4社の推薦紹介を得た。

支援対象企業候補 **38社** に絞り込み

支援対象企業候補38社に対して、セミナー及びヒアリングを実施した。セミナーは2回開催し、事業内容インプットに加えて、スクリーニング機能の効果も持たせた。

実施フローとセミナー

実施フロー



セミナー概要

①セミナー概要

- 日時：第1回>10月4日（10社参加）
  第2回>10月6日（9社参加）
- 方式：オンライン開催（Teams）
- 目的：事業内容インプット
  オープンイノベーションの意識啓発
  低意欲企業のスクリーニング

②アジェンダ

アジェンダ	内容
挨拶	事業の趣旨・概要など
講演	「他地域におけるオープンイノベーションの実態となぜ取り組むのか？」
トークセッション	✓ ものづくり中小企業にとってのオープンイノベーションの有効性とは？ ✓ ものづくり中小企業のオープンイノベーション事例 ✓ オープンイノベーションの活用に必要なこと
事業紹介	事業詳細説明、スケジュール
質疑応答	―

ヒアリングはヒアリングシートを用いて実施、採点項目に則って採点し、最終的に上位かつ参加意向を示した４社を支援対象企業とした。

ヒアリングと支援対象企業４社

ヒアリングシート

ヒアリングシートの各項目は以下の通り。

1. スタートアップとのオープンイノベーションに取り組む背景、理由を教えてください。
2. 過去にスタートアップとのオープンイノベーション（協業や業務提携、資本提携、共同研究など）に取り組んだ事例、実績があれば概要を教えてください。
3. 本プログラムを通じた協業案の実証実験のために、既に社内で予算を確保していますか？もしくは決裁権者を巻き込んで実証実験の実施に必要な予算申請ができる体制を準備していますか？
4. 本プログラムに参加する貴社のメンバーの人数と構成を教えてください。
5. 本プログラムを通じて生み出したい事業領域やサービス、プロダクトはどのようなものですか？（できるだけ具体的にお願いします）
6. 本プログラムを通じたオープンイノベーションで貴社がスタートアップに提供できるリソースを教えてください。（できるだけ具体的にお願いします）
7. 本プログラムを通じて、スタートアップに期待するものは何ですか？（できるだけ具体的にお願いします）
8. 本プログラムの参加に向けた意気込みや想いを教えてください。

ヒアリング採点項目

採点項目	採点
社内体制	1～3の3段階評価
組織風土	1～3の3段階評価
担当者熱意・コミット	1～3の3段階評価
協業実績・経験	1～3の3段階評価
スピード感	1～3の3段階評価
協業による事業の実現可能性	1～3の3段階評価
合計	最大18点

支援対象企業4社

会社名	所在県	HP
オカネツ工業（株）	岡山県	https://okanetsu.co.jp/
ダイヤ工業（株）	岡山県	https://www.daiyak.co.jp/
モルツウェル（株）	島根県	https://morzwell.co.jp/
某社	鳥取県	―

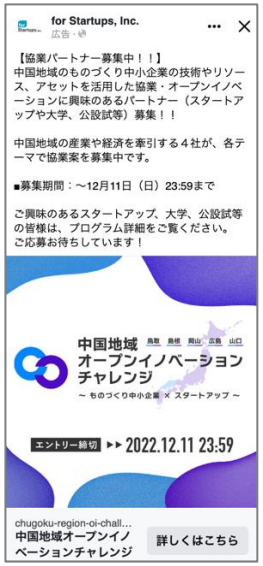
支援対象企業に協業イメージを確認の上情報を収集、パートナー候補募集ページを作成。募集ページ拡散やパートナー候補となり得るスタートアップ企業のソーシングを実施した。

パートナー候補の募集

募集ページ

募集の実施

SNS広告やオープンイノベーションメディアへの情報掲載等プル型のマーケティングを実施するとともに、STARTUP DB*を活用したソーシングを実施し、プッシュ型での応募企業の探索も実施した。



参考：SNS広告、オープンイノベーションメディアへの情報掲載

＊「STARTUP DB」とは、フォースタートアップス（株）が所有する17,000社以上のスタートアップ情報を集約した「成長産業に特化した情報プラットフォーム」。多くのスタートアップ・投資家・大手企業・研究機関に活用されている。

応募があったパートナー候補について書類選考及び面談選考を実施、パートナー候補を選出し、３チームがプレ協業に進んだ。

パートナー候補選考フロー

フロー

応募があったパートナー候補延べ10社に対して、書類選考・面談選考を実施した。

書類選考
- ✓ 応募があったパートナー候補延べ10社に対して事務局にて書類選考を実施。
- ✓ 採点結果は面談選考の参考とした。

面談選考
- ✓ パートナー候補からの提案内容プレゼン10分＋質疑含むディスカッション20分の合計30分で面談選考を実施。

パートナー候補選出
- ✓ 面談選考後に各支援対象企業と事務局との面談を実施し、面談選考を経ての所感確認と事務局からのフィードバック実施。
- ✓ その上で、支援対象企業のパートナー候補選出意向を確認。

プレ協業
- ✓ 「協業骨子作成シート」を用いて3週間に渡るプレ協業を実施。
- ✓ 正式協業に進めるにあたっての目標やゴール、協業内容等の整理を体系的に行った。

パートナー候補

各支援対象企業が選出したパートナー候補は以下の通り。プレ協業に進むのは3チームとなった。

支援対象企業	選出パートナー候補
オカネツ工業（株）	（株）Life Tech Robotics
ダイヤ工業（株）	（株）AYUMI BIONICS
モルツウェル（株）	（株）LOKOSOL（ロコソル）

応募があったパートナー候補について書類選考及び面談選考を実施、パートナー候補を選出し、３チームがプレ協業に進んだ。

書類選考基準

点数	新規性	事業性(市場性)	実現可能性	事業シナジー
4	全く新しいビジネスモデルであり、かつ新たな市場の創出が可能	ビジネスモデル、事業性、収益性ともに素晴らしい	ビジネスとして実現できる要素が揃っている（ヒト・金・チャンス）	自社の本業とのシナジーが高く、自社で保有するアセットやリソースの再活用で実現が可能
3	新しいビジネスモデルであるが、既に市場は存在している	ビジネスモデル、事業性は高いが、収益性が見えない	ビジネスとしての具体性は高いが、実現するための要素が欠けている	自社の本業とのシナジーが高いが、実現には自社で保有するアセットやリソース以外にも外部リソースが必要
2	似たようなビジネスモデルは既出だが、これまで使われたことのない市場で使われることで事業として成長する可能性がある	ビジネスモデルは良いが、事業性、収益性が乏しい	ビジネスとしての具体性は高くないが、実現するための要素は揃っている	自社の本業とのシナジーはそれほど高くはないが、自社で保有するアセットやリソースの再活用で実現が可能
1	ビジネスモデル、市場性ともに新規性が薄い	ビジネスモデル、事業性、収益性共に不明確	ビジネス自体の具体性に乏しく、また実現するための要素も揃っていない	自社の本業とのシナジーが低く、かつ実現には自社で保有するアセットやリソース以外にも外部リソースが必要

応募があったパートナー候補について書類選考及び面談選考を実施、パートナー候補を選出し、３チームがプレ協業に進んだ。

面談選考基準

点数	新規性	事業性(市場性)	実現可能性	事業シナジー	熱意/リソース/相性
4	全く新しいビジネスモデルであり、かつ新たな市場の創出が可能	ビジネスモデル、事業性、収益性ともに素晴らしい	ビジネスとして実現できる要素が揃っている（ヒト・金・チャンス）	自社の本業とのシナジーが高く、自社で保有するアセットやリソースの再活用で実現が可能	スタートアップが本事業における協業に対する熱意があり、リソースも十分で、かつ自社（担当者）との相性も良い
3	新しいビジネスモデルであるが、既に市場は存在している	ビジネスモデル、事業性は高いが、収益性が見えない	ビジネスとしての具体性は高いが、実現するための要素が欠けている	自社の本業とのシナジーが高いが、実現には自社で保有するアセットやリソース以外にも外部リソースが必要	スタートアップが本事業における協業に対する熱意はあり、自社（担当者）との相性も良さそうだが、本事業に対して割けるリソースが不明瞭
2	似たようなビジネスモデルは既出だが、これまで使われたことのない市場で使われることで事業として成長する可能性がある	ビジネスモデルは良いが、事業性、収益性が乏しい	ビジネスとしての具体性は高くないが、実現するための要素は揃っている	自社の本業とのシナジーはそれほど高くはないが、自社で保有するアセットやリソースの再活用で実現が可能	スタートアップが本事業における協業に対する熱意があり、リソースも十分だが、自社（担当者）との相性が不安
1	ビジネスモデル、市場性ともに新規性が薄い	ビジネスモデル、事業性、収益性共に不明確	ビジネス自体の具体性に乏しく、また実現するための要素も揃っていない	自社の本業とのシナジーが低く、かつ実現には自社で保有するアセットやリソース以外にも外部リソースが必要	スタートアップが本事業における協業に対する熱意はあるが、リソースが不十分で自社（担当者）との相性が不安

プレ協業の締めくくりとして経営プレゼンを実施、プレ協業にて策定した協業計画について支援対象企業の決裁権者へのプレゼンを行い、最終的に３協業チームの組成に至った。

オカネツ工業（株）の協業

支援対象企業	選出パートナー	協業概要
オカネツ工業(株)	(株)Life Tech Robotics	「夢ある挑戦」をスローガンに、農機や建機分野のBtoB取引を中心に、歯車単品の加工から車軸・変速機等動力伝達装置や、更には耕うん機等小型農業機械の完成品まで様々な金属製品の一貫生産を行う「オカネツ工業(株)」は、「ロボティクスですべての人を笑顔に」という理念の下、ロボットの開発・製造・販売をトータルで行う「(株)Life Tech Robotics」との協業でAIを搭載した自動草刈機の開発製造を目指す。

オンリーワンのものづくりがしたいという思いがありながらも、自社の中だけで開発をしていると限られたアイデアしか出てこないという課題を抱えていた「オカネツ工業(株)」。本事業に参加し「(株)Life Tech Robotics」との協業に取り組むことで、得意とするスピード感あるものづくり力を活かしながら、「(株)Life Tech Robotics」のシステム開発力とのシナジーによりAIを搭載した自動草刈機を開発、検証を重ねながら2023年度中の完成・販売を目指す。「草刈り」という肉体的にも精神的にも負荷のある労働を機械で代替していく未来を描いている。

プレ協業の締めくくりとして経営プレゼンを実施、プレ協業にて策定した協業計画について支援対象企業の決裁権者へのプレゼンを行い、最終的に３協業チームの組成に至った。

ダイヤ工業（株）の協業

支援対象企業	選出パートナー	協業概要
ダイヤ工業(株)	(株)AYUMI BIONICS	医療用品メーカーとして、様々な商品開発を行なっている「ダイヤ工業」。その中で接骨院等に提供している運動器年齢を測定するサービス「bonbone Check」を、さらに便利で効率的な測定とデータ活用でアップデートすべく、「足腰力測定システム」の開発・提供をしている「AYUMI BIONICS」と協業し、さらなる健康寿命延伸を目指す。

一社で出来ることには常々限界を感じており、これまでも色々な企業とコラボレーションをしてきましたが、スタートアップ企業との協業はほぼ初めてであった「ダイヤ工業(株)」。パートナー候補であるスタートアップ企業には革新的な技術、面白いアイデア、スピード感という期待値を高く持って本事業に参加。「(株)AYUMI BIONICS」との協業によって、アナログな形で行っていた「bonbone Check」のデジタル化を図るのはもちろんのこと、接骨院における問診への活用やダイヤ工業(株)が保有しているデータを活用した更に発展的な協業等、さまざまな構想に向けて協業を進める。

プレ協業の締めくくりとして経営プレゼンを実施、プレ協業にて策定した協業計画について支援対象企業の決裁権者へのプレゼンを行い、最終的に３協業チームの組成に至った。

モルツウェル（株）の協業

支援対象企業	選出パートナー	協業概要
モルツウェル（株）	（株）LOKOSOL	真空調理食品製造、厨房運営委託などを通して高齢者介護施設に美味しく安全な食を提供している「モルツウェル株式会社」。組織におけるエンゲージメント経営サービスを展開する「ロコソル」との協業で「障がい者の気持ち見える化システム」の開発を目指し、障がい者の就労における課題解決を図ることで、ひいては常態化する介護施設給食現場の人材不足解消を図る。

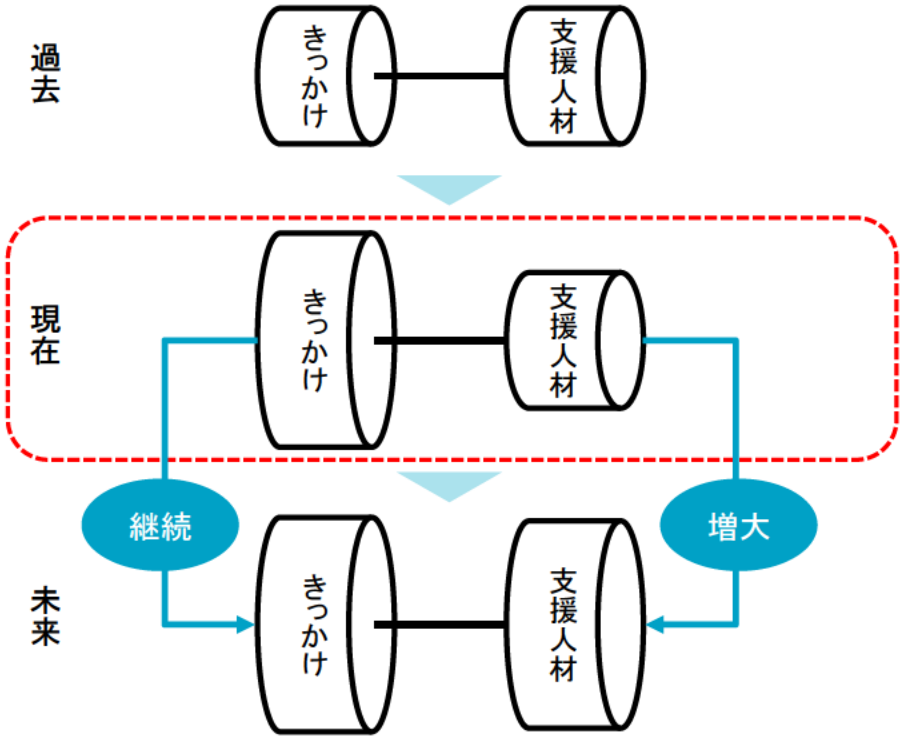
「モルツウェル（株）」は、4年ほど前から今後10年間で年間売上40億円まで事業拡大をしていこうという目標を掲げる中で、自社のリソースだけでは難しい部分や課題があり、異業種の企業さんとのコラボレーションが必要だと考え本事業に参加。「ロコソル」との協業によって、障がい者就労継続支援A型事業所の指導員さんと、実務を行う障がい者の方のコミュニケーションを可視化・仕組化するシステムの開発を目指す。これによって、人手不足の解消・障がい者雇用の創出という大きな課題の解決に挑む。

支援対象企業選定に際して紹介依頼を実施。また、中国地域に所在する某大学とはオープンイノベーションに係る打ち合わせを実施、課題感のヒアリングや意見交換を実施した。

課題と打ち手

エコシステム共通

きっかけづくりの場は創出されており、次は「きっかけができた後を支援するサポート人材の不足」が課題である。これは大学特有ではなくエコシステム共通の課題といえる。



研究開発型文脈

起業やオープンイノベーションについて、研究者への啓発が肝要。セミナー等を開催することで横のつながりを作るコミュニティ醸成にも一役買うことができる。コーディネーターも対象とすることで感度やリテラシーの向上も期待できる。

セミナーという「理由を持って集まることのできる場」を作ることで生まれるコミュニティ
（悩みの共有や事例の横展開含む）

3. 中国地域ベンチャーミートアップ事業

データベースからの抽出及び追加情報の収集などを経て、中国地域 研究開発型ベンチャーリストを作成、129社の掲載となった。

中国地域 研究開発型ベンチャーリスト作成

フロー

以下フローに則って「研究開発型ベンチャーリスト」の作成を実施した。

元データ作成
- ✓ STARTUP DB＊から、中国地域に所在する123社を抽出、大学発ベンチャーデータベース（経済産業省）との突合等を実施し、「中国地域 研究開発型ベンチャーリスト元データ（69社）」を作成。

追加情報収集
- ✓ 元データに掲載のない企業で「研究開発型ベンチャーにあたる、あたりそうな企業」の情報を、地方自治体や金融機関等にアンケート形式にて回答依頼実施。

アンケート回収
- ✓ アンケートの回収を実施、80社（延数・重複有）の追加情報を得た。

データクリーニング、リスト整備
- ✓ 定義に基づき「研究開発型ベンチャーか否か」をソート。
- ✓ 調査項目に基づいて追加調査を実施。
- ✓ 最終的に「129社」のリストとなった。

研究開発型ベンチャーの定義

- ✓ 基本は、「新規性・革新性または特徴的な技術を用いたビジネスモデルを有した企業」と幅広に定義
- ✓ 大学発ベンチャーデータベース（「研究成果ベンチャー」「共同研究ベンチャー」「技術移転ベンチャー」）に掲載がある企業は「研究開発型」に分類
- ✓ 受託、コンサル、SaaSオンリー、プラットフォームビジネスなど、明らかに研究開発型でないところは除外、それ以外は「研究開発型」に分類

調査項目

- ✓ 企業名(日本語・英語)
- ✓ 法人番号
- ✓ 所在地
- ✓ 代表者の役職・氏名
- ✓ 連絡先(電話番号・メールアドレス)
- ✓ ホームページのURL
- ✓ 設立年月日
- ✓ 資本金
- ✓ 正社員数
- ✓ 株式公開の有無
- ✓ 株式公開市場名
- ✓ 主力製品・サービス
- ✓ コア技術
- ✓ 出資や投資を受けている有無、またはその事業者名
- ✓ 特許情報

＊「STARTUP DB」とは、フォースタートアップス（株）が所有する17,000社以上のスタートアップ情報を集約した「成長産業に特化した情報プラットフォーム」。多くのスタートアップ・投資家・大手企業・研究機関に活用されている。

リスト作成時に協力いただいた機関に、オープンイノベーションに積極的・ニーズのある研究開発型ベンチャーの推薦紹介を依頼、６社のピッチ登壇企業を選定した。

ベンチャーミートアップイベント概要

イベント概要

①セミナー概要

- 日時：3月3日（金）15:00～
- 方式：オンライン開催（Webex）
- 解消：fabbit広島駅前

②アジェンダ

時　間	内　容
14:30	開場
14:50	Webexオープン
15:00～15:10	ご挨拶、事業説明
15:10～15:15	コメンテーターの紹介
15:15～16:21	研究開発型ベンチャーのピッチ 発表5分＋Q&A4分＋入替2分＝11分×6社＝66分
16:21～16:55	トークセッション 「中国地域におけるオープンイノベーションの芽と研究開発型ベンチャー」
16:55～17:00	総括＆締めの挨拶
17:00～17:30	ネットワーキング

登壇者一覧

①ピッチ登壇企業

企業名	所属県
ウィンゴーテクノロジー株式会社	岡山県
KGモーターズ株式会社	広島県
CIA株式会社	広島県
株式会社トーフミート	山口県
広島大学（創業準備中）	広島県
株式会社Flying Cell	広島県

②コメンテーター

氏名	所属
石元 玲氏	株式会社ちゅうぎんキャピタルパートナーズ
藤瀬 里紗氏	CIC Tokyo
小林 遼平氏	広島大学

③トークセッション

氏名	所属
小林 遼平氏	広島大学
堀江 佳世氏	カルビー株式会社

イベント開催に際してオーディエンスを募集するwebページを作成、関係機関とも協力しながらイベントの周知を実施した。

オーディエンスの募集

募集ページ

募集の実施

SNS広告やSTARTUP DB＊エンタープライズ会員へのメルマガ送付をはじめ、関係機関へのイベント周知、研究開発型ベンチャーとのオープンイノベーションに興味を持ちそうな先への展開依頼などを実施した。

参考：SNS広告、STARTUP DBエンタープライズ会員へのメルマガ

＊「STARTUP DB」とは、フォースタートアップス（株）が所有する17,000社以上のスタートアップ情報を集約した「成長産業に特化した情報プラットフォーム」。
多くのスタートアップ・投資家・大手企業・研究機関に活用されている。

イベントは盛況となり、出会いの場として機能。「オープンイノベーションに興味があるが取り組んでいない層」も参加者に取り込むことで啓発の役割も果たした。

イベントの開催状況

当日の実施風景

参加者

参加方式	人数
現地参加	36名（登壇者等含む）
オンラン視聴	41名

アンケート実施

イベント後に参加者へのアンケートを実施、今後の事業・イベント運営に反映させるとともに、ピッチ登壇企業へ関心を持った方は、当該ピッチ登壇企業に連携実施。

4. 中国地域におけるエコシステムの考察

本年度を中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステム形成の第一歩と位置付け、気運醸成～エコシステムの自走を継続していくことが肝要であると考える。

キーポイント

「きっかけづくり」の継続

■ 「きっかけづくり」や「啓発」は一度行って終わり、というものではなく継続することにこそ意義がある。打ち上げ花火で終わらせず、取り組みを継続することでオープンイノベーションへの理解も深まり、賛同者も増え、エコシステムの定着化へとつながっていくと思料する。

「フォーカスするエリア」の選定

■ 一気に中国地域５県全てを巻き込んだ取り組みを目指すのではなく、特定のエリアを選定し、そこでロールモデルとなり得る事例を創出することで横展開のしやすさにも繋がると思料する。

■ 例えば自治体の支援が他と比べて手薄である地域にフォーカスを当てるなど、中国地域５県を対象エリアとするからこそできる支援の形を目指すことが有効と考える。

「人材（伴走者）づくり」の着手

■ 「きっかけづくり」が一定機能しているからこそ生まれている課題である。オープンイノベーションに取り組もうとする企業や人材が発生する一方、それに対して経験や知識を持ってアドバイス・伴走・支援できる人材不足が顕在化している。

■ 「きっかけづくり」に加えて、オープンイノベーションに取り組む中で生まれる課題に伴走することのできる人材づくりに取り組むことで、各地域より一歩先行くエコシステムを構築することができると考える。

本年度を中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステム形成の第一歩と位置付け、気運醸成～エコシステムの自走を継続していくことが肝要であると考える。

本年度および今後の方針（案）

	本年度および今後の方針予定			本取組のゴール
	STEP1（本年度事業）	STEP2＊	STEP3＊	
方向性	中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステム形成の**基礎固め**	中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステムの**育成**	中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステムの**発展**	**【目指すべき効果】** • 中国地域におけるオープンイノベーション・エコシステムの確立 • 自発的な取り組みが各所で発生 • イノベーションへの取り組みが身近なものとなる **【副次的効果】** • 関係人口の増加 • 域外から域内へのヒト・モノ・カネの流入、循環 など
取組概要	**【各プレイヤーとの接点、事例創出】** • 中小企業、ベンチャー企業、その他パートナー • オープンイノベーション事例 • 研究開発型ベンチャーの調査 **【エコシステムの考察】** • 目指すべき姿と現実の差分明確化	**【接点強化、事例の拡大】** • 各プレイヤーとの接点を強化、取り組みを継続することで事例のつみかさね • フォーカスエリア選定を検討し、ロールモデルの輩出 • 人材（伴走者）づくり着手の検討 **【エコシステムの分析】** • 振り返りと翌年に向けた方針の再検討	**【横展開、域外からの流入】** • これまでに創出した事例からベストプラクティスを選定 • 域内における横展開 • 域外からの参画者やリソース流入 **【エコシステムの定着】** • 事例の社会実装支援 • プラットフォームを活用した相互交流の拡充	
残る論点	• 取り組みの継続化 • フォーカスエリアの検討 • 人材（伴走者）づくりの着手 など	• エコシステムの定着、自走化 • 国内における中国地域のプレゼンスの向上 • 域外から域内へのリソース流入、循環　など	• 中国地域経済への還元 • 中国地域の社会課題解決 • 域内にとどまらないイノベーションの創出 など	

＊イメージであり、詳細については今後の事業進捗を参照